

【説明会で未回答の質問に対する回答】

パソコン操作不慣れのため、チャットではなく音声で質疑応答してほしい。

今後の業務を進める上での参考とさせていただきます。

野幌森林公園の百年記念塔や開拓の村そして名称が変わってしまいましたが開拓記念館これらの施設はそもそも国際的にアピールするものとして作られたのでしょうか。後世へ北海道の歴史を伝えるために作られたものではないのでしょうか。これからの野幌森林公園の利用計画を見ていたら道民のために行うものとは思えない内容（多言語促進や電子マネー導入）が含まれてますが、これは当初の設置理由とは程遠いものと考えます。将来の道民のためにとお考えならば、計画再考をした方が肝要かと思えます。

北海道百年記念施設として設置された北海道博物館、北海道開拓の村及び北海道百年記念塔につきましては、開設以来、本道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の偉業、そして自然に触れることができる場として、これまで長きにわたり道内外の多くの方々に利用されてきました。

道では、平成30年に北海道150年を迎えるにあたり、これらの施設を将来に向けて、どのように後世に伝えていくのが相応しいのか検討を重ね、「50年後のめざす姿」を設定の上、今後「具体的な取組」を進めていくこととしています。

道としては、平成30年12月に策定した「交流空間構想」において、このエリアを「大都市近郊に残された野幌森林公園の豊かな自然環境をフィールドに、北海道博物館や北海道開拓の村が伝える「歴史・文化・自然」等の各施設が持つ強みを活かし、隣接する他の施設や教育機関等と一体となって、「学ぶ」、「触れる」、「集う」、「繋がる」をキーワードに、異なる世代、様々な国や民族、障がいの有無などに関わらず、訪れる利用者のすべてが、北海道の歴史や文化、自然を五感で「体感」し、交流できる賑わいのある持続可能な空間をめざします。」としており、この実現に向けて、様々な取組を行うこととしています。

今後1,000年先のことを思うと北海道の歴史はまだ150年です。その中で先人達が極寒の地のなみなみならぬ思いの開拓者の100年を記念した塔、とても美しいこの塔を老朽化や維持費から壊すに至る経緯が悲しいです。寺院やお寺、北海道では時計台は残されて、修復費にも予算がたくさん使われています。中途半端な新たな塔を建てるなら、道民の親しみのある百年記念塔を伊勢神宮のように式年遷宮のように、新たな技術や機能を取り入れて作るなど1,000年先に北海道を繋げていくことを考える機会がほしいです。百年記念塔の設計者の井口先生もお元気です。継承していけるのでは。もっと解体の議論の会を対面で作ってください。ミニチュアは全く意味が無いと思う。

道では、百年記念塔のあり方について、道民の皆様から幅広くご意見を伺うとともに、様々な専門家の方の知見を伺いながら、その保存・活用について、十分に時間をかけ、慎重に検討を重ねましたが、錆片等の落下の原因は、主に、雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定され、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

他の建造物と異なり、塔の構造に問題があるため、維持管理を続けても錆片等の落下などの老朽化の進行は避けられず、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断したものです。

なお、当初は対面での説明会の開催を予定しておりましたが、コロナの感染状況を鑑みまして、オンラインで説明会を開催させていただいたところです。説明会の参加状況や参加希望、コロナの感染拡大状況なども踏まえ、今後、開催方法につきまして検討してまいりたいと考えております。

錆片の落下とありますが、錆片の大きさを教えてください。1年間のうちいくつ落ちましたか。

落下物とはその大きさ、頻度どの様な物なのでしょうか。毎年、毎月、毎週どれくらい発見されているのでしょうか。

平成26年7月に実施した塔内部の定期点検におきましては、各階の梁等の上部に相当量の錆片の堆積が認められ、これまで大きいもので約10cm程度の錆片の落下が確認されています。

落下した錆片の一つひとつについて、正確な個数や大きさは把握していませんが、記念塔内部への立入禁止措置を講じた以降においても、巡回時等に、塔の内部・周辺に錆片の堆積等が確認されており、また、平成30年の台風第21号の通過による一部部材の落下や、令和3年6月4日の暴風雨による外壁の一部剥離などの被害が発生しています。

その空いている部分からどのくらい雨水が入って、どれだけの錆の進行を進めたのか詳細に教えてください。

赤錆を黒錆に変えれば、水が浸食しても問題ありませんし、より建造物が強固になり倒壊のおそれなくなります。こういった検討はされましたか。

平成9年に実施した日本建築学会北海道支部による調査におきましては、外板縁部の接合部分は、複雑な形状から雨水による水湿の供給が継続されており、安定錆とならず、経年とともに積層状に錆が増大、剥離した錆片が地上に落下・飛散する状況にあること、錆の進行と剥落の程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難との結果が示されています。

道では、この調査結果のほか、様々な専門家の方々からご意見を伺い、塔の保存・活用の可能性も含め、検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、部材の一部落下などが相次ぐ中、公園利用者の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断したものです。

保守管理に相当な費用を要するとは、いくらぐらいですか。解体費と新たなモニュメントを作るより安いのでは。そもそも長々と放っておいたことが原因ですよね。

将来世代の負担軽減とはどのような視点でお話しをしているのか。保全のためにお金を支出することで経済効果が得られますよね。誰かの支出は誰かの所得、乗数効果で地域の経済活性化にもつながります。

将来世代のつけとは、何を指すのでしょうか。具体的な説明をお願いします。

今後50年間、記念塔を維持管理するための経費につきましては、設計・施工の専門業者の積算によると、塔への立入を可能とする場合は、30億7,375万円、モニュメントとして維持する

場合は、28億4,090万円と見込まれています。

維持管理に上記の経費を費やしても、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、塔からの錆片や部材の落下の危険性を排除できないため、公園利用者の安全確保の観点から、解体もやむを得ないと判断したものです。

また、新たなモニュメントの設置を含めた広場の整備につきましては、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、内容を決定していくこととしておりますが、その決定にあたりましては、記念塔を維持した場合に要する経費を上回ることはないよう、耐久性や維持コストについて十分に配慮するとともに、民間資金や活力を最大限活用してまいります。

何ものかに作られているような公式見解は、良くわかりました。全く血のにじむ先祖を思うふるさとへの思いに答えないことに失望しています。そして想定問答集に基づいているのですが、北海道民として立場としてではなく道民として本当に記念塔をなくしていいのか考えたことがありますか。良心に訴えます。アリバイ的に作られた説明会で十分説明を尽くしたとされることは道民税の負担者として、先祖の思いを継ぐものとして耐えられません。

道では、百年記念塔のあり方について、道民の皆様から幅広くご意見を伺うとともに、様々な専門家の方の知見を伺いながら、その保存・活用について、十分に時間をかけ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、部材の一部落下などが相次ぐ中、公園利用者の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断に至ったものです。

解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えであり、その決定にあたりましては、広く道民の方々のご意見を伺うこととしております。

説明会資料 P8、9の「百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について」について令和3年の調査で、主体鉄骨部問題なし、エレベーターも壊れたわけでもなく、階段部も著しい破損等が見られない、内部排水部も良好な環境となっている。その他の部位も電気ケーブルボックスを改修するのみ、唯一、外板部の破損が大きく報告されています。

平成23年度調査報告書で今後10年間の保守管理計画が出ています。

| | | |
|-------|--------------------|-------------|
| 平成24年 | 早期、10年サイクルで措置すべき事項 | 11,444,000円 |
| 平成25年 | 5年、10年サイクルで措置すべき事項 | 9,593,000円 |
| 平成26年 | 5年、10年サイクルで措置すべき事項 | 9,593,000円 |
| 平成27年 | 5年、10年サイクルで措置すべき事項 | 9,593,000円 |
| 平成28年 | 5年、10年サイクルで措置すべき事項 | 9,593,000円 |
| 平成29年 | 5年、10年サイクルで措置すべき事項 | 9,593,000円 |
| 平成30年 | 10年サイクルで措置すべき事項 | 5,175,000円 |
| 平成31年 | 10年サイクルで措置すべき事項 | 5,175,000円 |
| 平成32年 | 10年サイクルで措置すべき事項 | 5,175,000円 |
| 平成33年 | 10年サイクルで措置すべき事項 | 5,175,000円 |
| | | 合計で約8,000万円 |

実際の修繕費

| | |
|--------|---|
| 平成24年度 | 4,704,000円（主体鉄骨補修、展望室天井防錆措置、踊場旧床撤去、外部ルーバー下端見切板改修） |
| 平成25年度 | 0円（維持管理調査のみ） |

| | | |
|--------|------------|-------------------------------------|
| 平成26年度 | 4,212,000円 | (踊場旧床撤去・改修、外部ルーバー下端見切板改修) |
| 平成27年度 | 4,212,000円 | (機械室外部床板改修、踊場旧床撤去・改修、外部ルーバー下端見切板改修) |
| 平成28年度 | 4,590,000円 | (外部ルーバー下端見切板改修、1階レリーフ改修) |
| 平成29年度 | 0円 | |
| 平成30年度 | 0円 | |
| 令和元年度 | 0円 | |
| 令和2年度 | 0円 | |
| 令和3年度 | 0円 | 合計で約1,700万円 |

説明会資料について、上記を踏まえて質問します。

- 質問1 外板部の損傷は、平成23年度の保守計画通りにやらなかったのが原因ではないですか。
- 質問2 百年記念塔が維持されている現状、立入禁止だけではなく、最低限の修繕を何故、平成29年度からやらないのですか。
- 質問3 錆片の落下、水切り板の落下、外板の穴など、保守計画通りにやらなかったのが原因ではないですか。
- 質問4 解体を促す原因を作ったのは、保守管理をやらなかった道の責任ではないですか。
- 質問5 平成23年度の保守管理費8,000万円をやらなかったせいで、令和3年度の多額の維持管理費につながったのではないですか。

建築家など専門家の方々からは、塔の構造上、外板周辺部の錆の進行と剥落について、その程度を軽減する処置はとれるにしても、錆や腐食の進行など、老朽化の進行を完全に防止することは困難との指摘を受けており、令和3年度の調査報告書におきましても、外板部の水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所が問題点として指摘されています。

道では、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所の修繕や改修工事を計画的に行ってきましたが、平成26年7月、塔内部において相当量の錆片の堆積や、外板ルーバー下端見切板に腐食による穴や鉄板の浮きが確認されたことから、塔内部への立入禁止措置を講じるとともに、専門業者による緊急調査を実施しました。

その結果、更なる錆片の落下や部材の剥離・落下も懸念されたことから、平成26年以降につきましては、公園利用者の安全確保のため、緊急的に対策が必要な箇所の修繕を優先して行うとともに、塔の解体方針の決定後においても、必要に応じて点検・補修を行ってきました。

塔の構造上、老朽化の進行が避けられない中、道では、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた大規模な修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきたところです。

保守管理計画の策定が平成23年度において、それまでの建築学会からドーコンに変更となった経緯とその時の発注方式はどの様に行われたのか。

どう見ても合理的な説明ではありません。これで説明したとするのは北海道として恥ずかしい内容です。特定業者の恣意的調査書ではなくて第三者の監査を要望します。

百年記念塔に係る保守管理計画策定調査の委託業務につきまして、平成13年度までは、建築の専門家の方々で組織された「日本建築学会北海道支部」と随意契約を締結していました。

平成18年5月に「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」が閣議決定されたことなどを踏まえ、道では、道が発注する公共工事及び公共工事に係る委託業務における入札契約制度の適正化を図るため、平成19年8月に「入札契約制度の適正化に係る取扱方針」を決定しました。記念塔に係る調査の委託業務につきましても、この取扱方針を踏まえ、契約形態を

入札方式に変更し、適正な手続きに沿って業者を決定したところです。

今の百年記念塔を解体し、新たなモニュメントを・・・と言いますが、理由が「老朽化」なら、新たに建てるものも「百年記念塔」であるべきだと思いますが、違いますか。
別の物を新たに建設する方が、メンテナンスよりもよほど予算をつけないといけません。

解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えです。

また、新たなモニュメントの設置を含めた広場の整備につきましては、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、内容を決定していくこととしていますが、決定にあたりましては、記念塔を維持した場合に要する経費を上回ることはないよう、耐久性や維持コストについて十分に配慮するとともに、民間資金や活力を最大限活用してまいります。

記念塔の維持管理について、有形文化財登録の申請をしたのでしょうか。有形文化財の登録を行えば、維持管理の費用が国から補助されることになり、道の負担がかなり減ります。

歴史的建造物の維持管理は費用がかかるのは当たり前の事です。赤レンガ道庁だって維持管理をした上で保存しているではありませんか。それなのに百年記念塔に関しては説明が解体ありきでしか説明なされていないのですが、いかがでしょうか。そのことは赤レンガ道庁は文化的価値が有るが百年記念塔には文化的価値がないと道庁は言い切っているように思えます。これについてご回答をお願いしたい。

安全確保であれば、きちんと保存行為をすることが第一ではないでしょうか。歴史的建造物は保全管理が必須であります。保存管理の道民を巻き込んだ広い議論なしに解体を秘密裏に進める行為と思えます。

先ほど文化的価値として保存する価値が無いとの回答ですが、知事が最終的に判断して道議会に提出したということで良いですか。

文化庁への有形文化財登録の申請は50年を経過していることが要件の一つです。百年記念塔解体の決定は48年目です。再度質問させていただきます。

(2) 文化財登録の申請は行った経緯があるのか。以上質問のお答えをお願いします。

有形文化財の申請でずいぶん答えを飛ばしている様に見えますが、お答えできないとのことか。

百年記念塔の今後のあり方について、幅広くご意見を伺う中で、記念塔に関しては様々な考え方があり、文化財の保存・活用等に専門的な知識を有した方から、「文化資源として残すべき」とのご意見があったところです。

このため、道では、記念塔を文化資源として保存・活用する可能性について、北海道教育委員会を含む庁内関係課で構成する検討会での議論はもとより、専門家の方々の知見も伺いながら「展望室への立入を可能とする場合」や「モニュメントとして維持する場合」に加え、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」などにつきまして

検討を行いました。

記念塔に関しては、その歴史的、文化的価値は否定しないものの、塔の構造上、老朽化の進行が止められず、赤レンガ庁舎とは異なり、錆片や部材の落下などが相次いでいる状況を踏まえると、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しており、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、文化資源として保存・活用することは難しく、解体もやむを得ないと判断したものです。

これだけ反対意見のあることを黙殺して解体を強行することは道民の過去と未来を分断するものであり、民主主義の崩壊といっているのです。

道では、記念塔のあり方について、平成28年以降、これまで、様々な分野の専門家や有識者のご意見を伺うとともに、道民ワークショップを3回、出前講座を2回、さらには施設を利用されている方や全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査などを通じて、道民の皆様から寄せられた様々なご意見を踏まえ、十分に時間をかけ、慎重に検討を重ねてきました。

その上で、記念塔解体の判断に至った考え方や、解体後の跡地を含む広場整備の方向性をお示した「交流空間構想」を策定し、北海道議会にご報告申し上げ、多くのご議論をいただくとともに、パブリックコメントを経て、決定いたしました。

「交流空間構想」の策定後においても、様々な機会を通じ、道の考え方について説明を行ってきたところですが、今後とも、塔の解体に関する道民の皆様のお考えや、様々な主張につきましては、真摯に受け止めながら、塔の老朽化の原因や現状、解体の判断に至った道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。

新しい案はなぜできているのでしょうか。

「北海道百年記念広場（仮称）の整備について」は、平成30年に策定した「交流空間構想」における「今後の方向性」や「具体的な取組」に加え、アンケートやワークショップ等で寄せられたアイデアを基にイメージとしてお示したものであり、具体的な内容については、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、決定することとしています。

太陽光パネルの設置といたしましたが、太陽光発電による環境破壊についてはどのようにお考えでしょうか。製造において有害物質を多数含むものであり、災害時に破損すると化学物質が発生し周辺環境が汚染されます。

「北海道百年記念広場（仮称）の整備について」は、平成30年に策定した「交流空間構想」における「今後の方向性」や「具体的な取組」に加え、アンケートやワークショップ等で寄せられたアイデアを基にイメージとしてお示したものであり、具体的な内容については、今後、民間企業からのご提案や道民の皆様からのご意見などを踏まえ、決定することとしています。

この度、いただいたご意見につきましても、参考とさせていただきます。

平成30年に行われた施設利用者へのアンケートと社会人、学生へのアンケートの設問が異なるのはどうしてでしょうか。存続が59%となり、解体をやむを得ないという選択肢はありません。全道

の社会人及び学生に対するアンケートでは、老朽化が進んでいることが前提で、費用面を強調したような設問は誘導しているように感じます。アンケートをとり、集計するのなら維持や解体に偏った設問ではなく、公平に同じ設問をすることが必要だと思います。一部の方へのアンケートだけでなく、道民や札幌市民全体へ再度アンケートをとることも含め、どうお考えでしょうか。

道では、記念塔のあり方について、専門家や有識者の方々の知見を伺うとともに、道民の皆様から幅広くご意見を伺うこととし、道民ワークショップや出前講座の開催に加え、施設を利用されている方や全道の社会人及び大学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

施設を利用される方々においては、記念塔の存続を希望する意見が多く、一方で、全道の社会人及び大学生に対するアンケート調査では、解体もやむを得ないとする意見が多いなど、道民の皆様の間には様々な考え方がありました。

このため、道では、塔の安全性について、専門家の方々の知見も伺いながら、保存・活用について検討を行いました。最終的に、塔の構造上、老朽化の進行を完全に防ぐことは難しく、公園を利用される方々の安全確保などの観点から、解体もやむを得ないと判断いたしました。

北海道の広報誌に、百年記念塔解体についてこれまでどのような説明がなされているのか、ご提示ください。

百年記念塔の解体に関して、道の広報誌を活用した周知等は行っていませんが、道政を進める上では、様々な情報をタイムリーに発信し、広く道民の皆様のご理解とご協力を得ることが不可欠であることから、記念塔のあり方検討にあたっては、その節目節目でホームページへの掲載や報道への情報提供を通じて、広範に情報をお伝えできるよう取り組んでまいりました。

記念塔保存案を研究する余地はゼロなのでしょうか。

記念塔保存を研究する余地は全くないのでしょうか。

これだけの保全の声が上がっています。広報にも載せておらず知らない道民も多いです。多数の保全の声をきき、いま一度検討するのが正しい行政のあり方ではないのでしょうか。

道では、記念塔を含む百年記念施設のあり方に係る検討を行うにあたり、その議論の経過も含め、多くの道民の皆様幅広く周知の上、ご意見をいただくことが必要と考え、道のホームページへの掲載はもとより、記念塔解体の判断に至った考え方や、解体後の跡地を含む広場整備の方向性をお示しした「交流空間構想」の策定にあたっては、検討会議の開催の都度、報道発表を行うなど、周知に努めた結果、新聞やテレビなどで取り上げていただきました。

また、道民ワークショップや出前講座の開催、アンケート調査の実施などを通じて、道民の皆様のご意見を伺うとともに、地域の市役所や区役所に加え、地元町内会の方々や記念塔を校歌・校章に用いている学校に対しては、それぞれのご都合を伺いながら、可能な限り直接お会いし、記念塔の解体もやむを得ないという方針について、説明を行ってまいりました。

道としては、今後においても、様々な機会を通じて塔の解体の判断に立った考え方などについて、ご理解いただくよう努めてまいります。

専門家会議ですが、もっとたくさんの専門家の意見が必要だと思います。また、野幌森林公園のあり方も設計の公開コンペなどで行ってほしい。

道では、記念塔を含む百年記念施設のあり方を検討するにあたり、学識経験者等で構成された「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」において検討を行うとともに、「交流空間構想」の策定にあたりましては、ヘリテージマネージャー、古民家再生、公園デザイン、資金調達、交通事業者、施設利用者や学識者など各界の専門家から、ご意見を伺ってきました。

また、塔の解体跡地に設置するモニュメントや広場整備については、PFIなど事業手法も含め、民間から提案を受けるとともに、幅広く提案を受けられる方法を採用し、具体的な内容を決定してまいります。

老朽化を完全に止めるなど、いかなる建物も不可能ですよ。だからメンテナンスが必要なのですが、先ほど「道としては適切に保全してきました。」とお答えになりましたね。適切な管理をしたと言っておきながら解体が必要だという事は、結局適切なメンテナンスではなかったということですよ。その責任はどうするのですか。

老朽化、老朽化というが、道民財産を老朽化させた責任はメンテナンスをしなかった道にある。責任の所在は知事でよいか。

建築家など専門家の方々からは、塔の構造上、外板周辺部の錆の進行と剥落について、その程度を軽減する処置はとれるにしても、完全に防止することは困難との指摘を受けています。

道では、これまで専門家等による塔の現況調査結果に基づき、保守管理計画を策定の上、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきましたが、塔の構造上、老朽化の進行が避けられない中、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえると、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断したものです。

用意してある答えを機械のように読み上げるのは止めてください。質問に答えていませんが、その事はわかっていますか。

問答集で乗り切ろうとしているのか。道民の声なんて聞く気ないでしょ、酷すぎるわ。

これで「道民への説明責任を果たした」と思われては困ります。同じ回答を繰り返すだけで、こちらが聞いたことの回答としては、かなりズレています。本当にこれでまともに答えていると思っているのですか。読み上げている女性が気の毒です。

もう、問答集はいいです。

質問に真摯に答えてくれないということがはっきりとわかりました。

これが、知事の言った丁寧な説明なんですか。茶番もいいところです。こんなに対応が酷いとは思わなかった。

予想どおりと言えば予想どおりですが、あまりに誠意のない対応に失望しています。

この茶番が、知事の丁寧な説明なんでしょうね。

遠くからも良く見える百年記念塔は、私たち家族にとっては遠出した後、家に帰る目標であり、シンボルです。ぜひ解体しないで残してもらいたい。展望エレベーターも復活させ、百年記念塔、北海道博物館、北海道開拓の村等で白老のウポポイのように、観光に力を入れた再開発や道の駅などを設置してもらいたい。

住民説明会では合理的な反対意見と情動的な反対意見も含めて大多数が反対意見であったことを踏まえて、再度解体について検討し直すことを期待します。すでに住民だけでなく報道により道民にも不合理な決定過程について疑問が噴出しています。この説明会の意見は重いです。

説明会参加者をこれほど説得できず、怒りがわいてくるというのもすごい。これ、全部公開してください。

説明会で拾いきれない多数の声を今後どこで集約してくれるのでしょうか。これで十分ということとは到底納得できません。

未回答の質問の回答を打ち切るということでしょうか。

道では、これまで記念塔解体の判断に至った考え方などをお示しした「交流空間構想」について、様々な機会を通じて説明を行ってきましたが、地元住民の皆様の思いや、存続を求める方々の主張を真摯に受け止め、改めて道の考え方を説明する場を設けることとし、この度、3回にわたりオンラインによる説明会を開催することとしたものです。

今回の説明会におけるご意見も含め、塔の解体に関する皆様の思いやご意見に対しては、今後とも真摯に受け止めながら、道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。

なお、説明会の資料及び会議録は、道のホームページで公開するとともに、時間の関係で、その場でお答えできなかった質問に対しまして、回答を作成の上、公開いたします。

野幌森林公園入口の案内図は2021年まで完全に放置しており、ただの白い板のようになっておりました。今まで費用をかけてメンテナンスをしていたとおっしゃっていましたが、このファイルを見ても本当でしょうか。怠慢としか思えません。

道では、これまで専門家等による塔の現況調査結果に基づき、保守管理計画を策定した上で、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を実施するなど、塔の所有者として、これまで8億6,200万円余をかけて、必要な維持管理に努めてきたところでございます。

なお、ご指摘のありました案内図につきましては、令和2年8月に改修を行ったところです。

質問の回答に専門家と言われてますが、この会議に出てチャットで質問している人は建築の専門家も多いです。偏った専門家の意見だと思います。

道では、記念塔のあり方を検討するにあたり、建築鋼構造や構造力学・地震工学、建築構造学な

ど学識者の方々や、専門コンサルや設計・施工の専門業者、外板の素材メーカーなど、様々な専門家の方々の知見を伺いながら、塔の保存・活用について、十分に時間をかけ、慎重に検討を重ねてきましたが、塔の構造上、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であり、公園利用者の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断に至ったものです。

道としては、塔の解体に関して、建築の専門家の方々の考えなど、様々な意見があることは承知しており、今後とも、解体の判断に至った道の考え方について、ご理解いただくよう努めてまいります。

設計者の意見は尊重したのですか。

記念塔のあり方の検討にあたり、道では、設計者の井口様に対して、記念塔の現状や、様々な分野の専門家、有識者の方々のご意見など、議論の経過を丁寧にご説明するとともに、今後のあり方などに関して、ご意見を伺うことが必要と考え、平成29年以降、5回に渡って直接お会いし、ご意見を伺うとともに、令和2年6月には記念塔内部の現状もご覧いただきました。

井口様からは、

- ・形状を大幅に変更する残し方は容認できない
- ・モニュメントとして維持し、自然に委ねるのが本来の姿
- ・雨水等を完全に防ぐことは、物理的に不可能

など、様々なご意見をいただきました。

また、交流空間構想を直接お渡しし、専門家の知見も伺いながら安全性について検討を行ってきたこと、最終的には、塔の構造上、老朽化の進行は止められないこと、自然に委せる手法は、公園を利用する方々の安全確保の観点から難しく、解体もやむを得ないと判断したことについて、ご理解いただけるよう、ご説明申し上げたところです。

最初から検討委員会で解体を唱えた方は何人いたのでしょうか。そのお名前も教えていただきたいく思います。

百年記念塔を含む百年記念施設のあり方については、平成28年10月から平成29年10月に「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を5回開催し、「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」を策定しました。

また、上記の考え方にに基づき、平成30年5月から8月に「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想検討会議」を3回開催し、「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」を策定いたしました。

懇談会や検討会議の概要につきましては、「交流空間構想」に記載しているほか、道のホームページで公表しています。

新たなモニュメントは道民の意見で決定と回答していただきました。では百年記念塔を式年遷宮のようにまた建てましょう。話題になります。

解体後の跡地に設置するモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていく考えであり、

その決定にあたりましては、広く道民の皆様からご意見を伺ってまいります。

本年は札幌市制施行百年ですが、その年に解体をするのは誠に残念です。少なくとも解体を延ばすべきです。

道では、塔の老朽化の進行により、錆片等の落下が確認されたことから、公園を利用される方々の安全を確保するため、平成26年以降、塔への立入禁止措置を講じるとともに、巡回警備を強化し、必要に応じて緊急的な点検・修繕等を行ってきましたが、平成30年の台風の通過による一部部材の落下や、昨年6月の暴風雨による外壁の一部剥離など、錆片や部材の落下等が続いている状況を踏まえ、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しているものと認識しており、このまま安全性の問題を先送りすることはできないものと考えております。

この説明会に参加し、このような形では限界があるとよくわかりました。先ほどから何度も回答に登場する専門家を迎えて、対面式の説明会を設定してください。我々の質問は、予め用意された回答パターンで納得などできませんよ。嘘も多いです。「丁寧な説明」がされていないから、解体反対の声が上がっているのです。今対応されている職員さんは本当にご苦労様とは思いますが、このような意見が出るのは当然だと痛感されていると思います。今一度、説明会を設けていただけませんか。

道としては、まずは説明会に参加された皆様からいただいた、ご質問やご意見に対するお答えを道のホームページで公開するなど、道の考え方について、ご理解をいただけるよう努めてまいります。

また、会場にお集まりいただく方式での説明会の開催につきましては、今回の説明会でのご意見や、道民の皆様から寄せられる問い合わせの状況、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、必要に応じて検討してまいりたいと考えています。

有形文化財のくんだりで安全確保の都合で断念したとのお話がありましたが、安全確保をするのであれば公園立ち入り禁止をするのも一つではないか。

公園エリアにつきましては、あらゆる方々が安心して公園を利用できる環境づくりを進めていくこととしておりますが、塔の老朽化の進行により、錆片の落下等が確認されたことから、道では、公園を利用される方々の安全を確保するため、平成26年から、塔への立入禁止措置を講じたほか、必要な箇所にバリケートや看板を設置するとともに、巡回警備を強化するなど、安全確保を図ってきたところです。

しかしながら、平成30年の台風の通過による一部部材の落下や、昨年6月の暴風雨による外壁の一部剥離など、錆片や部材の落下等が続いている状況を踏まえ、人的被害をはじめ、塔の周辺に影響を及ぼす危険度が増しているものと認識しており、公園を利用される方々の安全確保の観点から、解体もやむを得ないとした、これまでの判断に変更はございません。

道は説明したつもりになってはいますが、全く勘違いです。身を切って寄付した道民の意志はどうなりますか。

記念塔の建設にあたりましては、道内企業や団体、各自治体に加え、個人の方々からも寄附をいただいたことから、塔の解体もやむを得ないとの判断をお示しした「交流空間構想」の策定の際には、その内容について、北海道商工会議所連合会などの経済団体や北海道市長会、町村会をはじめとする各自治体、地元の市役所や区役所に説明させていただきました。また、地元町内会や記念塔を校歌・校章に用いている学校に対しましては、それぞれのご都合を伺いながら、可能な限り直接お会いし、改めて、記念塔の解体もやむを得ないとした道の方針と、今後の野幌森林公園エリアの活用の方向性について、ご説明させていただきました。

今後とも、存続を願う道民の皆様の思いや様々な主張を真摯に受け止めながら、塔の老朽化が進行している現状や道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。

「(この説明会の内容を) 知事に報告して参りたいと考えています」との事ですが、報告してくださる約束ではなく、「考えている」だけですか。

知事にはこのチャット一字一句全てを伝えて欲しい。

説明会の内容につきましては、知事にも報告いたしました。

百年記念塔を50年持たせるために30億かければ可能ということであれば、「解体やむなし」の結論は早計ではないでしょうか。何度も言います。国から費用を調達すればよいのですから。

建築家など専門家の方々からは、塔の構造上、外板周辺部の錆の進行と剥落について、その程度を軽減する処置はとれるにしても、完全に防止することは困難との指摘を受けているところです。

道では、これまで専門家等による塔の現況調査結果に基づき、保守管理計画を策定の上、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を行うなど、所有者として適切な維持管理に努めてきましたが、塔の構造上、老朽化の進行が止められず、錆片や部材の落下などが続いている状況を踏まえますと、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないものと考えております。

記念塔を校歌や校章に使用している学校からの、解体容認ではなく、反対意見も教えてください。

町内会や学校での説明会では反対がありましたがその意見は反映しないということなのでしょうか。反対はなかったという認識でしょうか。

記念塔を校歌や校章に使用している学校や地元町内会の方々からは、「記念塔を残してほしい」とのご要望や「たった50年で解体するのはいかなものか」「解体されるのは寂しいが、安全上の観点からやむを得ない」「記念塔があった事実を児童・生徒に伝えられるようなものがあればありがたい」など様々なご意見がありました。

これまで、地元住民の皆様や存続を求める団体の方々に対しましては、公園利用者の安全を確保するためには、記念塔の解体もやむを得ないと判断した道の考え方について、できる限り丁寧な説明に努めてきたところですが、今後とも存続を願う道民の皆様の思いや様々な主張を真摯に受け止めながら、塔の老朽化が進行している現状や道の考え方について丁寧に説明し、ご理解いただけるよう努めてまいります。

この件を議会にかけた「会派名」と「議員名」を開示してください

これまで、北海道として、記念塔のあり方などに関し、北海道議会に報告等を行った経緯は次のとおりです。

平成29年9月 環境生活委員会に「百年記念施設の継承と活用に関する考え方(案)」を報告

平成30年9月 環境生活委員会に「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想(素案)」を報告

平成30年11月 環境生活委員会に「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想(案)」を報告

令和2年2月 第1回北海道議会定例会に「百年記念塔解体実施設計費予算」を提案

令和3年11月 環境生活委員会に「百年記念塔の解体工事に係る実施設計の結果」を報告

令和4年2月 第1回北海道議会定例会に「百年記念塔解体工事費予算」を提案

説明会資料 P11の「外板の素材メーカーによる調査結果」について質問いたします。昨年、新日鐵住金株式会社の「百年記念塔腐食状況調査報告について」を開示請求いたしました。全部黒塗りで全く内容がわかりません。もし、説明会資料の内容であれば、何故、隠す必要があったのでしょうか。

市民団体の要請により、新日鐵住金による百年記念塔の腐食状況の調査結果の情報公開をされたと思います。その結果の内容がすべて黒塗りで、結論を意図的に隠しているのは明白です。この部分の公開を求めます。

道では、記念塔の安全性の検討にあたり、建築鋼構造や構造力学・地震工学、建築構造学など学識者の方々や、専門コンサルや設計・施工の専門業者の方々に加え、外板の素材メーカーの方の知見を伺うことが必要と考え、記念塔の現状についてヒアリングを行ったところです。

そのヒアリングの内容につきましては、「会社の見解としての公表は差し控えたい」とのご意見を踏まえ、北海道情報公開条例の規定に基づき非開示としています。

上記ヒアリングの実施後、「交流空間構想」の策定にあたり、塔の安全性について、改めて会社と見解を伺ったところ、「特定箇所に、外板パネルの穴あき、波打ち、及び錆片の落下が確認される。これらは、主に雨水の塔内部への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。」と見解が示されたため、会社の了解を得た上で、交流空間構想に記載したところです。